

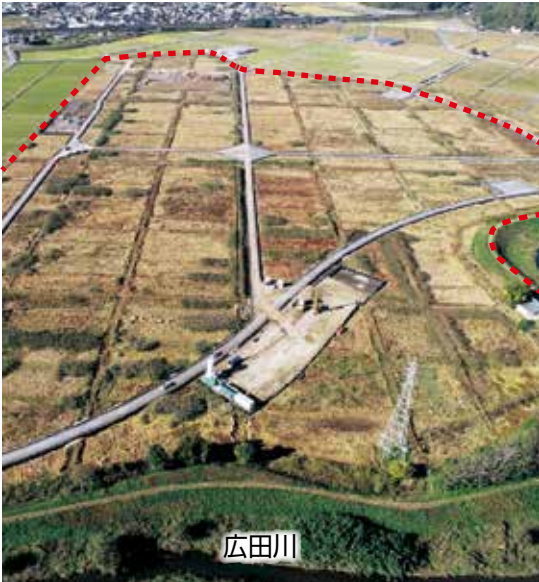


つづき ゆきお 議員
都築 幸夫

菱池遊水地利用をどうするのか



少額経費で効果大の施設を検討



広田川

工事が始まった菱池遊水地 (R3年10月撮影)

菱池遊水地完成後に、遊水地をどのように利用していくのかを問う。

問 遊水地工事の課題と、その取り組みを問う。

答 建設部長▼軟弱地盤対策が課題である。地盤改良機により、セメント改良を行っている。

問 遊水地事業を進める上で、県と町の役割分担は。

答 洪水時の遊水地機能の維持管理は県が行う。それ以外の部分は、町が河川区域を占有する形で、利用・管理できる。

問 平成27年の土地利用構想は、遊水地のほぼ全面に施設が配置されている。県と約束されているのか。この案だといくらかかるのか。

答 県と約束された計画ではない。全体事業費は16億円、

維持管理は年間6000万円と試算している。

問 県と町で、土地管理区分の基本的考え方。

答 比較的越流頻度の高い部分は県、それ以外のエリアは町の管理となる。

問 遊水地利用に、カーボンニュートラルに貢献できる、メガソーラ発電はどうか。

答 県の「矢作川カーボンニュートラルプロジェクト」への可能性も含めて、実現可能か県と相談する。

問 菱池遊水地利用をどうするのか。

多くの町民が望む施設で、財政負担の少ないコンパクトな利用を進めていただきたい。

答 町長▼広大な土地を有効活用し、少額経費で、効果大の施設を検討する。

安全安心な自転車利用の町に

自転車通行帯路面表示を検討

「自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」を、愛知県が制定した。

この条例により、安全な自転車利用を、どう進めるかを問う。

問 最近の幸田町内の自転車事故状況は。

答 教育部長▼直近3年の年平均は17件。その内中高生が4割を占める。

問 自転車保険の加入は義務化されたが、中学自転車通学者の加入状況と促進策は。

答 中学校全体では、79・8%の加入率。保険加入の必要性を周知していく。

問 安全な自転車通学の為に、定期点検整備が必要ではないか。

答 チェックシートで、生徒同士で点検し合える形で出来ればと、考えている。

問 ヘルメット着用は努力義務となったが、着用してもらうための方策は。

答 総務部長▼本年度から購入補助を実施。啓発ポスターを駅、役場などの駐輪場に掲示している。

問 自転車利用の多い道路に「自転車ナビマーク」設置を推進して、安全安心な自転車利用の町に。

答 建設部長▼通勤者自転車利用の多い道路、歩行者と自転車が接触しそうな路線を中心に、自転車通行帯の路面表示を検討する。



みずの ちよこ 議員
水野 千代子

3歳児健診で屈折検査の導入を

補助制度創設に合わせて検討



問 弱視は早期発見・治療すれば回復が期待できる。子どもの50人に1人はいる弱視現状は。

答 健康福祉部長▼3歳児健診を受診した355人のうち、精密検査の対象となった子どもが29人、その後の精密検査の結果、弱視又は弱視の疑いと判定された子どもが6人。

問 小型機器を使い屈折検査をする県内自治体は。

答 県内で導入は、16自治体。西三河で5市、また岡崎市、安城市、西尾市の3市が今後導入予定。

問 国は新年度、検査機器を導入する自治体へ補助制度を創設する方針である。その内容は。

答 1台100万円とされる機器を購入

する場合、2分の1を補助する方針。

問 3歳児健診で屈折検査の導入を。

答 令和4年度からの国の補助制度創設の動きに合わせて、機器の購入を検討したい。

問 療育を必要とする発達障がい児が増えている。現況は。

答 療育を必要とする子どもの人数は把握してないが、療育手帖所持者数は125人、町内外の児童発達支援施設の直近利用者数72人、放課後等デイサービスの利用者194人となっている。

問 岡崎市こども発達センターに通所している子どもの人数は。

答 「めばえ」10人、「わかば」5人、「つばさ」10人である。

問 療育を断られる事はあるか。

答 定員の関係から、断られる事もあり、対応として町立保育園等で保育士の増員、また町内外の児童発達支援施設を活用し、対応している。

問 町内に療育を実施している事業所は。

答 町内に、「こども発達支援センター「桃っ子」」、「児童発達支援事業所くる」の2か所である。

問 早期発見・治療を進めるためにも、

答 加齢により心身ともに衰えてきた状態であること。

療育の希望者を断らない支援を望む。

問 町内にある児童発達支援施設、放課後等デイサービスのほか町外の福祉サービス事業所も活用し、適切な支援を行っていきたい。

答 町内に「こども発達支援センター」は、

「加齢によって心身が老い衰え、社会との繋がりが減少した状態」を言う。適切な取り組みを行うことでフレイルの進行を防ぎ健康に戻る事ができる。

問 フレイルの認識は。

答 加齢により心身ともに衰えてきた状態であること。

問 状態を認識するチェックリストの導入を。

答 将来的にチェックリストの作成、導入を検討したい。

問 フレイル予防・改善するため、栄養・身体活動・社会参加の取り組みを進めないか。

答 介護予防事業を通じて、高齢者の運動指導・栄養改善・社会参加に関する取り組みに引き続き努めたい。

問 モバイル端末などを使い「eスポーツ」を活用してフレイル予防策を。

答 各圏域の特色と地域資源を活用した介護予防事業の企画と運営を行うことにより、フレイル予防に資する取り組みを充実させていきたい。



3歳児健診の様子

eスポーツ活用でフレイル予防地域包括支援センターを活用